

# おれんじニュース

No276

2013年3月号



1月27日、難所ヶ滝 滝の近くは氷とツルツルの岩で身動きもままならずこの後ここで事故発生 写真中里氏

★ 会員一人一人が運営委員です。みんなでオレンジHCの運営に参加しましょう。

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	2013年3月	2013年4月	時 間	場 所
運営委員会	13日(水)	10日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館
ひまわり集会	1日(金)	5日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	27日(水)	24日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館



難所を通過して難所ヶ滝へそこから三郡山へも



中須賀さん他の会に紛れ込み



小つらら



難所ヶ滝の標識と案内人



難所ヶ滝



難所ヶ滝から稜線分岐に向う



三郡山



三郡山から若杉山方面への下り



檜谷Bコースを下る



檜谷Bコース テーブル状岩付近



檜谷Bコース登山口に出て  
アイゼンを外す



三郡山を振り返る



終点・頭巾山登山口

写真提供 鎗水氏

## 2013/3月の山行



部	山行部	技術研修部	自然保護部	ひまわり山行部	技術研修部
月・日	3日(日)	9日(土)	19日(火)	29日(金)	30(土)/31(日)
山名 (行事)	仰烏帽子山 (1302m)	馬見山 (977.8m)	虚空蔵山 (609m)	とけん山	国東両子山と 天念寺無明の橋 文殊山
地図	頭地	小石原・甘木	嬉野・彼杵	肥前小浜	香々地
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 7:00 西諫早駅 7:10	西諫早駅 8:00	島鉄バス 諫早駅 8:20 口ノ津行	諫早駅裏 7:00 西諫早駅 7:10
難易度	やや健脚	九州自然歩道 歩き	やや冒険あり	ゆっくり歩く	やや冒険あり
帰着時間	19:00	18:00	18:00	17:00	18:00
歩行時間	4.5h	4.5h	4.5h	4h	4h(二日とも)
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	マイカー	公共交通機関	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り	あかね温泉
温泉	?	?		有り	
参加費	5000円	5000円	1500円	交通費のみ	16000円
申込期限	定員なり次第	定員なり次第	定員なり次第	随時参加受付	定員なり次第
集約	田中	佐原	中村	林	佐原
備考	福寿草の見頃 です	神武天皇の馬 が暴れて山中 に逃げたの を見送った	岩屋神社も尋 ねます。親不孝 かどうか見極 める岩あり。	お花見が出来る と思います	天念寺の無明の 橋、めったに渡 れない橋
感想文提出	3/13	3/19	3/29	4/9	4/10

### 技術研修部だより

3月2日(土) セルフレスキュー 西諫早駅前に9:30集合

### 夏のアルプス計画

8月下旬 しろうまだけ かえらずのけん かしまやり  
白馬岳～不帰険～鹿島槍 (申込み川原へ)

### 夏のアルプスにむけて訓練登山

3月17日(日) 中山キャンプ場から笹南峰へそして経ヶ岳へ 西諫早駅前8時集合  
マイカーです。参加費1000円集約山下 マンサクも見たいと思います。

## 2013/4月の山行



部	自然保護部	山行部	ひまわり山行部	技術研修部
月・日	4月9日(火)	4月13日(土)	4月26日(金)	4月28日(日)・ 29日(月,祝)
山名 (行事)	本明川	渡神岳(1150.2m)	大野原・ 猪見岳(590m)	東鳳翩山(741.9m) 筋ヶ岳(1004m) 弟見山(989m)
地 図	諫早	豊後大野	彼杵	山口、筋ヶ岳、梶谷
集合場所	諫早公園 9:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難易度	初心者	初心者	初心者	中級
帰着時間	16:00	18:00	17:00	20:00
歩行時間	5h	3.5h	4h	4h(二日とも)
交通手段	全て歩き	マイクロバス	マイカー	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	太陽堂(山口市)
温泉	無し	有り	無し	有
参加費	無し	5000円	1000円	16000円
申込期限	随時	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集 約	中村	田中	林	佐原
備 考	お花見しながら 歩きます。	ショウジョウバカ マを見つけます。	蕨狩りもしま す。	早春の花カタクリ を愛でに行きます
感想文提出	4/29	4/23	5/6	5/9



難所ヶ滝から三郡山へ小雪の舞う中 写真  
提供 田中さん(北九州)



三郡山へ向かう途中の道路 ホワイトアウト  
状態である。写真提供 中須賀氏

# 2012年12月/2013月の山行報告



1月18日(金)

## 八十八ヵ所札所めぐり「久山 津水」

(参加者) 兵庫 小山 中里 山口 佐原 中村 下釜 林 松尾(元会員)

(行程) 西諫早駅 8:30～87 番札所長尾寺～84 番札所鹿島寺 10:30～83 番札所1の宮寺 11:36  
～79 番札所高照寺 12:04～80 番 13:00 国分寺～81 番札所 13:30 白峰寺～14:21 八  
栗寺～帰宅 1600

(感想) ポカポカ陽気に恵まれて西諫早駅を8時30分に出発。久しぶりに元会員の松尾さんが参加元気な姿を見せてくれた。まず津水の長尾寺にお参りをする。線香ろうそくを立てて皆で般若心経を唱えた。線路に沿って刈り入れの済んだあぜ道を通る。汗ばんだ頬にひんやり感のある風が心地良い。木床まで6か寺回った。どこの祠もよだれかけ?をかけておそろいの帽子をかぶったお地蔵さんが大事に祀ってあった。

4か所目 79 番札所高照院は鹿神社にあり日向ぼっこしながらお弁当。

85 番八栗寺を終えたときは私の携帯では3万歩を超えて、疲れてしまった。近くに山口いつこさんの、家がありぜんざいを用意してあるという。空き地にぜんざい、みかん、お茶が用意されて、おごちそうになった。とても美味しく元気が出ました。用意大変だったでしょう。山口さん有難うございました。(林 記)

1月19日(土)

## 県連主催「地図とコンパスの見方」 in 小野・金比羅山

(参加者) 坂口、中村、中野、中里、工藤、松岡、県連全体 40名

(感想) 私は当日遅刻しまして肝心の午前中の講義を受けられませんでした。実は丁度一週間前の土曜日にかん違いして一人ザックに弁当を入れて小野の体育館に行ったのですが待つ事30分かん違いに気づいて御館山で一人弁当を食べて帰りました。

更に、本当の当日のこの日は完全に度忘れして御館山でロープワークの手ほどきを受けて帰ろうとした時 just time 中村さんからの「なんしょと?」と電話をもらって慌てて駆けつけた次第です。

最近、度忘れ、かん違い、落し物、物忘れ等々が頻繁で、「今度の大山行は大丈夫かな?」と思って掛け算の「九九」をやってみましたが何とか出来たので安心しました。—私事ですいません。

さて午前中の講義が終わって11時よりA B C D(各7名)の4グループに分かれA班、B班が宮崎側から、C班、D班が宗方側から地図上の指定されたルートでコンパスを使って辿り金比羅山頂上まで登った後、蓮華石岳に到るという設定ではあったのですが、どの班も最終的に蓮華石岳には辿りつけませんでした。

自分はA班で中村側から農家横の畦道から入って金比羅山頂に12時15分頃到着。一昼食を取りその後市街地の眺めを楽しんで1時から蓮華石岳を目指したのですがいきなり「ヤブコギ」に突入しかなり苦戦しました。地図上の鉄塔を中心に細い道の線（等高線と間違えやすい）等をなぞって行くのですが電力会社の作業道に惑わされて結構難しい作業だと思いました。

2時40分頃ようやく「この道だ」と確信できる林道迄出たのですが今度は左右の分岐を見誤り黒崎方向に進んでしまいました。途中でようやく間違いに気付いたのですが今から戻って再チャレンジしたら集合予定時間に大幅に遅れてしまうという事でそのまま進んで3時15分無事(?)小野体育館横の「ふれあい会館」に到着しました。

天気も良く、他の会の人達となごやかに交流できてなかなか楽しかったです。今後もっと経験を積んでもっと「地図とコンパス」に慣れ親しんで行く必要があると痛感しました。次回はもう少し進歩したいと思っています。

残りの班の帰着を待つ間、坂口さんが「登山では迷い慣れする事も必要だよ」という言葉がとても印象的でした。

(追記)オレンジの大先輩の中村さんの参加したC班は「ヤブコギ」の中で苦闘して昼食も「ヤブコギ」の中という状況で戻って来たのが4時を大きく過ぎていました。本当にご苦労様でした。中村さんの勧めで坂口さんがサブをされたA班に入れてもらって助かりました。感謝しております。(松岡 記)

## 1月27日(日)

### うわ〜すごい!(難所ヶ滝)と三郡山

(参加者) 福岡、林、田村、佐原、鎗水、山下、高森、金丸、下釜、川内、山本、中須賀、田中(静)、林田、中里、川原、山口、外(江口(佐賀)、北御門(佐賀)、田中(北九州))

(20名)

(行程) 6:20諫早駅裏/:30西諫早〜8:45/9:00一本杉林道こうらたにと河原谷コース分岐(昭和の森公園)〜(河原谷コース)〜10:00昭和の森・難所ヶ滝・宝満山分岐〜10:20小つらら〜10:40/:45大つらら(難所ヶ滝)〜(河原谷コース)〜11:30三郡山・宝満山分岐〜12:40/13:05三郡山(昼食)〜(櫛谷Bコース)〜14:50/15:00櫛谷Bコース登山口〜15:30/:45頭巾山登山口〜(マイクロバス移動)〜16:10/17:00(みかさの湯)〜18:30/:45金立SA〜19:30西諫早駅

(感想) うわ〜すごい!.....この混みよう。

登山口に整備された3、4か所の駐車場は既に満車。

難所ヶ滝の氷瀑はつとに有名であり、マスコミでも報道されている。ここ数日冷え込みが続き、今日は雪の日曜日とくれば、観光地の如く混み合うのは当然かも?

9:00に昭和の森公園の登山口(河原谷コース)を出発。ちょうど1時間で昭和の森・難所ヶ滝・宝満山分岐に到着。そこから難所ヶ滝まで30分との表示がある。ここまでは比較的整備された登山道で歩きやすい。しかし、この先は岩ごろごろの悪路を他の登山グループと入り乱れながら進む。空気はしんしんと冷え粉雪がちらちらと舞っているが、汗がにじむ。



10:20 木立の奥にちらりと氷瀑が見えてくる。これがなにしよう難所ヶ滝か？すごいな～と感心していたら「小つらら」との標識があり。写真に収めて少し登って行くと「河原谷の大つらら」の標識が現れる。福岡さんが標識の脇で「こっち こっち」と案内している。今日はここで案内のアルバイトだろうか？

ここから先は更に急登となり岩も土も凍りついているため、アイゼンを着けていない足では本当に緊張する。

うわ～すごい！・・・眼前にシネマスコープのように広がる氷瀑に感動する。

標高 724m で陽が当たらず細い流れがつららとなり、成長し繋がり、まるで大滝のようになっているのである。

今日ばかりは、雨女ならず雪女、々、々・・・に感謝！

それにしても何と人の多い事か。氷瀑に近づく事もカメラアングルを変える為に移動する事も出来ない。凍りついた崖っぷちで下手に動けば危険でもある。仕方なく定点で写真を撮ろうとしていたら、何人もの雪女が氷瀑をバックに撮ってくれろとカメラを差し出すので、ハイ次、ハイ次とさばく。中に見覚えのない雪女がいたが、色々ポーズを変えてもらい入念に撮ってあげた。



11:45 氷瀑から慎重にトラバースして河原谷コースに戻り、稜線上の三郡山・宝満山分岐



を目指す。凍りついた急登を、木の根などを掴み慎重にゆっくりと登って行く。11:30 稜線上の分岐に出た。木立があるためさほど風は受けないが寒気は強くなる。

そこから左に道を取り 1.2km 先の三郡山を目指す。比較的平坦な道で積雪も 2cm 位であったが、所々凍りついており途中でアイゼンを着ける事になった。やはりアイゼンを着けると安心する面もあるが、歩き難さもある。余談ながら読者の皆さん、アイゼンを着けるときは「アイゼンの歌(山茶花の宿の替え歌 2 番)」を思い出しながら着けると間違えませんよ。

12:40 三郡山頂(936m)に到着。風を遮る木立もなく体感温度は-10℃、女性で防寒帽からはみ出した髪が霧氷のように白くなり、数時間で老婆に変身？ 記念撮影もそこそこに立ったまま食事をし、13:05 に下山開始。

若杉山に向かう途中の分岐から左に「樗谷Bコース」に入る。ここも急であり、所々崩壊しているところをアイゼンを着けて下りるため、またまた緊張を強いられる。

それでも時々周りの景色を見ると、雪化粧をしたテール状の岩や滝が見え、きっと気候の良い時はさわやかな登山道であり、また夏は豪快な沢



登が楽しめるのではないかと思います。

14:50 樺谷Bコース登山口に出た、これで難所は殆ど抜けた事になる。ここでアイゼンを外し、林道を歩いてマイクロバスの待つ頭巾山登山口(15:30)に到着。

うわ〜 一瞬凍りついた！・・・・のちホッ

マイクロバスに戻ったら、先に戻っていたゆっくり組の人から開口一番、難所ヶ滝で滑落事故があり、レスキュー隊やらヘリが出ているとの事で、わがメンバーの事故かと一瞬凍りついたが、そうではなくてホッとした。バスが発車した頃ヘリが山から市街地の方に飛んで行ったので、救助が完了したのであろう。約5時間を要したことになる。

今回の計画や各役割を担当していただいた方々ご苦労様でした。お蔭で大変感動的で良い雪山訓練になりましたし、また各位の日々のトレーニングの甲斐あって事故もなく、とても思い出深い山行になりました。 (鎗水 記写真も)

## 1月30日(木)

### 郡岳(826m)

(参加者) 中村、林田、工藤、佐原、金丸、中野、兵庫、佐藤、円能寺、下釜、山口、松岡、中里、小山、山下、川原 (16名)

(行程) 西諫早駅 8:00—野岳キャンプ場 9:00—西登山口 9:30—郡岳頂上 11:00—遠目越—郡岳 12:00 昼食・清掃—下山開始—南側登山口 13:00—野岳キャンプ場—温泉—西諫早駅 14:00

(感想) 当日は天気にも恵まれて登山口から檜の植林の中を歩いて森林浴を楽しむ事が出来ました。しばらく行くと急な登りになり正月でなまけた身体には少し堪えました。

坊岩に着いてここからの眺めは素晴らしく、広々とした大野原演習場やゴルフ場、大村湾や川棚方面まで一望に見渡せてそれまでの疲れも吹き飛びました。

11時に郡岳頂上に着いて時間に余裕がありましたので遠目越まで足を延ばしました。

途中で、オレンジHCで建てた標識が3か所あり、当会の活動の一端を垣間見る機会に出会えてよかったです。



お昼は郡岳山頂からの眺望を楽しみながらたべました。まさに山登りの醍醐味だと感じる一時でした。

いつも女性陣の元気とパワーに感心させられながら私も元気をもらっています。

まだ駆け出しの私ですが、これから少しでも参加回数を増やしていきたいと思っています。

今後ともご指導のほどよろしくお願いします。

(円能寺 記)



2月3日(日)

## 雲仙新道霧氷沢の霧氷鑑賞登山

(参加者) 川原、中須賀、下釜、岩永(の)、山口、田中(静)、中野、山下、本田、鎗水、  
外(森川、柳迫) (12名)

(行程) 西諫早駅 8:00—仁田峠着 9:35—登山口発 9:50—あざみ谷 10:20  
—紅葉茶屋 10:50—鬼人谷入口 11:10—西の風穴 11:28—立岩の峰 11:45・昼食・  
—霧氷沢 12:30—普賢岳頂上 12:50—紅葉茶屋—国見別れ—吹越分岐—妙見神社 14:05  
—仁田峠—14:36—よか湯 13:40—西諫早着 16:30

(感想) 空は青く澄み渡り、霧氷鑑賞登山ですが、霧氷には程遠いよい天気です、西諫早駅  
8時30分出発4台の車に分乗しての山行です。山の霧氷を期待して、仁田峠に着く、仁田  
峠展望所で、ストレッチ体操をし地図と、コンパスをあわせ、あざみ谷、モミジ茶屋、新  
道ルートを行く。霧氷鑑賞登山であるが、木の枝には、水滴もなく少しの残雪と霜柱そし



て、ちいさな氷柱があるだけで上着一枚脱ぎまし  
た。噴火前の、山の様子や旧人たちの風穴での、  
蚕の保存があったことを、知りました。展望所  
では、多良岳、遠くは、熊本、天草がよく見え  
ました。立岩の峰で、昼食と集合写真を撮り普賢  
岳へむかいました。ここで再度写真を撮りました。  
美人に写してもらおうとポーズも取ろうとして  
たのですが、多くの登山者がいましたのでさっ  
さと撮影を終え、モミジ茶屋へと下山しまし  
ました。大山行きのことを考えながら、歩いて

いると、こんなもんじゃないだろな。もっともっと大変だろうな？大山に参加すると決め  
たが、ちょっとだけ、不安を感じて歩いてると、  
背後から「下釜さん、大山はこんな急登で雪が  
ありアイゼン履いて登るんだよ」と声がしまし  
た。身体力が一度にぬけた感じがしました。  
10本爪のアイゼンを持ってきたが履くこともな  
く背中に重たくのしかかる・妙見岳で、大山行  
きはむりかな？でも10爪のアイゼン、買ったし  
頑張るしかない。妙見岳の山頂は見晴らしがよ  
く、気持ちよくすっきりとした気分で、仁田峠  
駐車場へ下りました。ここで、温泉組みと、帰宅  
組と別れて解散。一緒に参加された皆さん御苦労さまでした。



(下釜 記)

2月8(金)～11日(月)

## 2013年度伯耆大山冬山登山学校

(参加者) オレンジ：川原、福岡、中里、松岡、国分、下釜、山下、鎗水 (8名)

(行程)

2/08 20:30西諫早駅～21:30/45金立SA(佐賀隊合流)～22:00筑紫野高速バス停(国分さん)

2/09 4:50蒜山高原SA～8:00大山南光河原～8:10/9:15下山キャンプ場(テント張り)  
～10:25/15:50滑落停止訓練(3合目)～16:45南光河原～17:30ホテル

### 2/10 弥山往復コース

7:10ホテル～8:30下山登山口～9:50 5合目～10:20 6合目～11:40/12:00大山頂上避難小屋(弥山往復)～12:50/13:00 6合目～13:30/15:35元谷～16:05/35大神山神社・大山寺～16:45/19:00とやま旅館(懇親会)～19:40ホテル

2/11 8:00ホテル～9:00/12:00足立美術館～17:30宮島SA～18:45/30壇ノ浦SA～20:30金立SA(解散会)～21:30西諫早駅

(感想1)

2/09:バスを降りると寒気で目が覚めた。目の前に荒々しいが墨絵のような北壁が屏風のように立ちはだかる。

まず、下山キャンプ場でテント張りの実習を行う。テント張り一つにしても、経験の積み重ねによる知恵や工夫が生かされている。例えば、割り箸を雪に埋め込み踏みつけると十分ペグ代わりになるなど。でも手袋をつけては細紐のくくり付けなどで苦勞をしてたな～。

その後、3合目まで登り斜面を利用して滑落停止訓練を行う。昨年の阿弥陀堂より斜面が長い分充実した訓練になったと思うが、年に1回では中々指導されるようにはいかない。

棒のようになったり、エビのようになったり、逆さまになったり皆もがいていたな～。

毎日家でイメージトレーニングしながら練習したら畳や床が傷むだろうから、また来年頑張ろうかな？ それにしても、雪とブナ林の霧氷がきれいであった。

2/10:今日は弥山往復。昨年は7合目で引き返したので今回は可能な限り達成したい。

私は記録カメラマンにつき2番目を歩く。

4合目位まではまずまずの天気であり、雪できれいなブナ林の中を登る。時々クレバスの下に夏道が見えるが、何合目かを示す標識が雪の上に出ているので、積雪は昨年より1mは少ないと思われる。

しかし、6合目からは急登の上に風を遮るものがない



稜線に出るため、小雪混りの北風が叩きつけ、ほほや鼻が痛い。更にホワイトアウトで視界は 10~20m。目印の旗竿を探しながら登る。新雪の下は凍りついておりピッケルで穴を空けながら、我々も「山口いつこさん」が用意してくれた旗竿を挿していく。9合目の木道が少し見えた時はほっとしたが、頂上避難小屋の姿はもちろん方向も分らない。旗竿を探しながら、凍りついて雪を冠ったキャラボクの上を進んでいくと、



突然避難小屋が目の前に現れた。小屋の中には人がいるが、グリーン一色で何も見えない。白一色の中でサングラスをしていなかったせいであろう。

少し休んで、11:50 10m先の大山頂上(弥山)にたどり着いた。

相変わらず強風とホワイトアウトの中を急ぎ下山する。

6合目につくと風も当たらないため、零下であるにも関わらず暖かく感じる。ここで行動食を摂る。

さあ~これからが取って置きの楽しみです。シリシェードで元谷まで雪の急斜面を一気に滑って行く。距離にして 150~200mくらいかな、実に爽快であった。なぜ昨年これをやらなかったのであろう。

元谷の避難小屋脇では雪洞の掘り方、ブロックの利用、ツェルトによる屋根の掛け方などの指導を受ける。確かに暖かく感じる、これであれば緊急事態でも助かりそう。



最後に、この雪洞を利用して雪崩に埋まった時の経験とコミュニケーションの取り方などの指導を受けた。埋められ役になった2人の女傑に敬意を表します。

今回の訓練では冬山の厳しさ(なめたらあかん)とその対応方法を学ぶと共に、楽しみ方も教えてもらい大変充実した内容でした。県連役員、リーダーの方々に感謝いたします。(鎗水 記)

**(感想2)** スノーシューとストックを使っての雪山ハイキングを体験したくて、大山登山学校に参加しました。

1日目(9日)、米子労山の皆さんに歩き方の指導を受けながら踏み跡の無い林道を歩きました。先頭を代わりながら進みました。途中ブナの巨木を見ながら元谷へ下りました。正面に純白に輝く大山の山が現れました。外国の山をみてるようで感動しました。

米子労山の方が雪で椅子とテーブルを作り味噌汁とコーヒーをごちそうになりました。

楽しい一時でした。大神山神社奥宮でお参りして帰りました。この間行動時間は約4時間でした。

マイクロバスで米子のホテルへ行き、夕食後、少人数で米子駅に水木しげるの妖怪「鬼太郎列車」を見物に行きました。米子ラーメンも食べました。楽しい夜でした。

2日目(10日)米子労山の知り合いの人にガイドをお願いして、ブナ林の中を自分の好きな所を自由に歩きました。ザクザクと音がして気持ち良かったです。大山の自然について

でも説明してもらいました。

昼食後、夏山登山道から登山者が歩かないブナ林のなかを 2 合目まで登り下山しました。

この日も楽しく歩く事が出来ました。そしてまた米子ホテルへ戻りました。

3 日目(11 日)ホテルを朝 8 時に出発し足立美術館で日本一の庭園と名画を楽しみました。

そして酒を飲みながら、佐賀労山の皆さんと交流を楽しみながら帰路につきました。

諫早着は 22:00 でした。

(福岡 記)

### (感想3)

この世に生を受けてかれこれ 66 年余。

初めての雪山体験をさせて頂きました。

一言感想をとのことですが、うーん、何と言ったらいいか一面の銀世界は・・・とか月並で駄目ですね。

今まで見たことの無い水色(クレパスの水色)にほんの微量の鉛色を溶かした様な空に白い綿の様な雪をトリミングした樹々、まわりは無造作にこんもり積もった白い雪・雪・雪の山並み。…………一寸、表現不可能です。

「Beyond Description」一筆舌に尽くし難しーです。

若かりし時にもう少し真面目に勉学に励んでいればと今更悔やんでみても残念ながら「Time Once Lost is Lost Forever」光陰矢の如しでございます。がいくつになってもかなわぬ夢を追うというのも人間の悲しい性なんですかね、この文章を書いて、ふと思ったんですがこれは鶴田浩二の「傷だらけの人生」のセリフ部分に一寸似てます。知らないうちに影響を受けているんだなと思いました。ーすぐ感化されやすいのも自分の特徴でもあります。

今回はつい背伸びして《何でも背伸びしてしまうのは生来の悪い癖なので(昔、父から「人間分を知らんといかん」といやになる程しつこく言われたのを思い出します)多分死ぬ迄この癖は治らないとは思っていますが》登山コースを志望したのですが初日、訓練後下山中、安易な滑り方をしてしまってあえなく足を傷めてしまい 2 日目は登山を断念してハイキングコースに回りました。

スノーシューを使って雪深い冬の大山国立公園の中を地元の方にガイドンを受けて自然観察しながら散策したりなかなか楽しませてもらいました。

が、ホテルに帰って同室の鎗水さんから登頂の際の色々な話を聞きながら、極めつけは元谷迄のスリリングな尻シェード等を一見冷徹で知性派(褒めてるつもりです)の鎗水さんが目を輝かせて熱っぽく語られるのを聞くにつれて羨望と軽い嫉妬に襲われました。

次回は充分、心、身、技術共に鍛えてリベンジしたいと思います。

### 追記

ハイキングコースに転向してからは福岡さんに大変お世話になりました。初めてゲレンデに上るリフトに福岡さんと並んで乗ったのですが右手にスノーシュー左手にダブルストック背中はずックの圧力に押され、あわや落下しそうになって福岡さんが「危ない！落ちるぞ、もっと反って、反って」とアドヴァイスを受けまして必死でイナバウアー状態にもって行って身代わりにストック 1 本落下させるだけで済みました。本当に怖かったです。



もしあのまま落下していたら山で滑り又山に上がる前リフトで落ちオレンジの面白い人と言う事で一寸有名になって、娘から「松岡家の恥」(彼女はよくこのフレーズを多用します)でも、恐怖でフリーズしてしまった自分の顔を横目に見ながら福岡さんの口元が一寸笑っている様にも思えたのですが自分の思い違いですよ？失礼しました。

無事に諫早に帰れておいしい酒を飲んでおります。先輩、本当に有り難うございました。今後ともご指導ご鞭撻、宜しくおねがいします。(松岡 記)

(感想4) 去年につづいて今年は 2 回目の参加である。今年は是非弥山に登頂したいと思っていた。九日、着いてすぐ滑落停止訓練をはじめた。去年あるていど教わっていたので復習の意味で旨く実技が出来たと思う。ロープワークは今年は松岡さんに指導することに熱中してあまり自分のハーネスを持参するのを忘れるという失敗をしたがシュリングで作ってそこは経験がものをいうようになった。鎗水さんと下釜さん。私と松岡さんの 2 ペアでアンザイレンをしようと話し合っって明日の弥山登頂にそなえた。明日は今日の様に晴れるだろうか？



ホテルで一晩過ごして別所の駐車場に着くと 5 合目まではアイゼン無しで行くと思っていたら、いきなりここでアイゼンを装着することになり、ホッとする。足が重いけど安定感が良い。3 合目まで登ってみると昨日の訓練の場所がうっすら雪がへこんでついていた。

この辺りまでは平坦で歩きやすい。汗がにじむほどである。6 合目避難小屋が見えてきた。ここでまた小休止。少しペースを遅くして主稜縦走のメンバーと離れるように歩く。

避難小屋からは急登になり、やがて風もでてきた。平山さんが道標の竹を差し込む間後ろで待つのが寒い様になって来た。彼はもっと大変なのだ。8 合目あたりから視界がきかなくなりルートを外しそうになる。われわれもよく目を見開いて歩かねば。かすかかに出てる耳の端が痛いように冷たい。最後の木道みたいな所を歩きだしたら頂上らしい所に着き頂上小屋があった。中は暗くてそこで衣服を整えて頂上へ行くことになった。ところが頂上は何処なのか足跡もわからない。



川原さんが少しでも高い所へ目指していけばそこがトップだと言ってかろうじて頂上を踏むことが出来た。何も見えず寒いのですぐ頂上小屋に戻り下山することにした。

8 合目あたりでトップの平山さんがアイゼンをはずしてしまうアクシデントに見舞われた。で、川原さんにトップを交代。やはり安心感がありうれしい。6 合目からの尻シェードは最高にスリリングで最高に楽しく「やったー！！」と言う感じ。オレンジハイキングの一員で良かったとつくづく思った。最高の冬山だった。(山下 記)



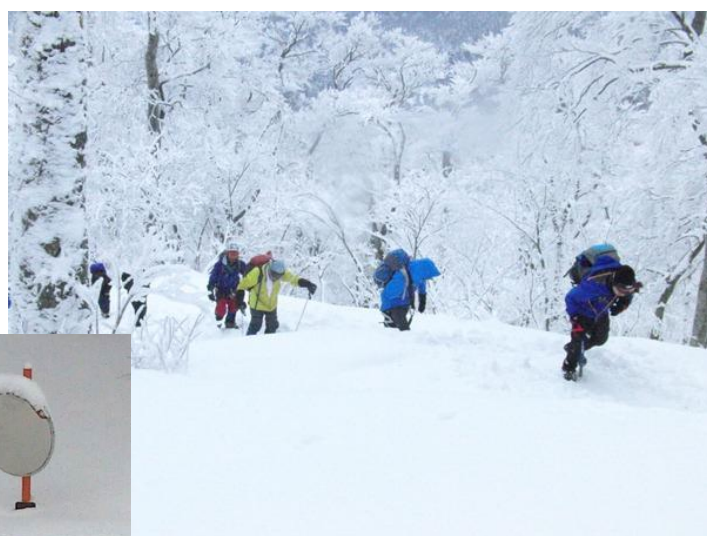
下山キャンプ場より大山をのぞむ



大山頂上(弥山)



元谷から大山の稜線をのぞむ



弥山を目指す(5合目手前)



カーブミラー

おれんじニュースNo276	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2013. 2. 27
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	<a href="http://zd1307.s11.zdrv.com/wp_orange/">http://zd1307.s11.zdrv.com/wp_orange/</a>

先月号と打って変わって  
 今月は冬山・雪山の特集  
 みたいになりました。  
 やはり冬はこうでなくっ  
 ちゃ。と思い一人写真を  
 楽しんで編集しました。  
 沢山の写真を送って下さ  
 った方々ありがとうございました。  
 全部掲載でき  
 なくてごめんなさい。